

## 1 テーマ

発達支援学級の子供たちに有効なICTの活用について

## 2 テーマ設定の理由または、課題（発達支援学級・知的・4年2人 1年1人）

4年生の2人の児童を昨年度に続いて担任をしている。昨年度、2人ともローマ字の仕組みについて理解をして読めるようになり、ローマ字入力が少しずつできるようになってきた。将来、ICTと付き合っていく子供たちに、ローマ字入力を身に付けてほしい、様々な機能を有効的に使ってもらいたいと願っている。

一方、1年生1名の入級もあり、タブレットに慣れさせることも課題の一つである。

また、教師自身がICTを活用する力がなかなか向上しないため、有効な活用ができていないことも、課題である。

校内研修で、有効な活用法を探るよりもまずは、積極的に ICT を利用してみることが大切であることを指導される。

## 3 実践内容

### (1) ローマ字入力ができるようになるために(4年生)

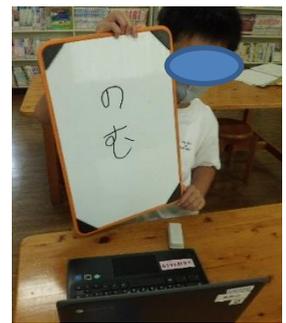
3年生からローマ字の仕組みを学び始め、4年生1学期までかけてほぼ読むことができるようになった。同時に、タブレットのキーが小文字だったので、ローマ字の学習を生かして少しずつローマ字入力ができるようになった。タブレットを持ち帰ったときは、ストリームを利用して教師が、問題を出し、ローマ字入力をして送信をさせた。最初は単語を入力(①みかん ②魚…等)させていたが、文も入力できるようになり、最近是一行日記を送信させるようにしている。

### (2) 3人で学習することの楽しさを味わわせるために

実態が異なる2人の4年生と1年生(教科書を利用した学習が困難な実態あり)が、同じ場所・同じ時間の中で学習するときは、時には3人が関わり合って課題に取り組んだり問題を出し合ったりする等の工夫が必要であった。意欲を高める一つ的手段として、隣同士の教室で Meet を利用して、問題を出し合ったり、じゃんけんをしたりした。

教師が4年生に  
nomuと問題を出

〇〇さん、  
これを読んでみて!



## 4 成果と課題

○ タイピングの練習を始めたときは、大文字で出題されたが、予想外に抵抗はないようであった。(fとjに突起がある理由を話し、少しずつ両手で入力できるようにしている。)

○ 1年生の児童が、数日欠席をすることになり、その間Meetやドリルパークの利用が役に立った。特にこれまでの経験を生かして Meet を介して、3人で会話をしながら学習できたことで、意欲も高まった。また、4年生は Meet の操作が自分でできるようになった。

● 自分自身のICTに対する苦手意識や技能の低さが、最も大きな壁となっていることを実感している。→有効な活用法を探る前に、自分が慣れるように努力する。

● 通常学級でICT支援員が入る授業で子供たちが学んだことは、子供たちから学ぶことも一つの手段としたい。